

洞川いも栽培で遊休農地発生防止

(奈良県天川村農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約
化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他（農業
委員会の体制
強化等）

1 地区の特徴・状況、課題

- 天川村は、奈良県の中部に位置する村であり、面積の98%が山林で占められ、農地は天ノ川沿いの集落附近のわずかな平地や傾斜地に開かれている。農地面積は、65.2ha(うち水田19.2ha、畑46ha)が広がっている。
- 農家総数103戸、農家人口は178人で、後継者不足で、水田の作付け面積・生産量は共に激減している。そのほとんどが第2種兼業農家であり、農耕地は面積が狭く、日照時間が少ないこともあり、生産性は極めて低く、農業の担い手の減少と農地の遊休化が問題となっている。



2 課題解決に向けた活動（農地利用の最適化の推進の取組と工夫）

- 平成28年度より遊休農地を活用し、農業委員を中心に天川村で古くから栽培されている「洞川いも」の栽培を開始
 - ・ 平成28年度:少量の種いもから平成29年度栽培用の種いもを栽培
 - ・ 平成29年度:栽培した種いもから昨年度より耕作面積を増やし、栽培。収穫した「洞川いも」は、農業委員を中心に種いもとして配布。天川村で新たに農業を始めたい方や「洞川いも」の栽培に興味がある方に周知し、「洞川いも」栽培活動を通して村内全域に遊休農地の解消・発生防止活動を行った。
 - ・ 令和元年度以降:収穫した洞川いもを村の直場所「てん」にて、天川村の郷土料理「いもぼた」として販売している。今後も、「洞川いも」の栽培活動を通して、村内の遊休農地の発生防止・解消につなげていきたい。